

原発避難 これまでとこれから

瀬戸隆寿

私は福島県双葉郡双葉町妙勝寺住職、瀬戸隆寿と申します。

今回、教化学研究発表大会という場で、このように研究発表をさせて頂き誠にありがとうございます。

震災から六年半が経過し、全国の皆様はもとより、地元の福島県の住民でも原発避難が現在どのような状況なのか分からないのが現状であります。そこで、まずは原発避難の発生から現状を説明いたします。

原発事故が発生し、双葉郡のそれぞれの町村は、福島県内の自治体に協力を要請し、避難を致しましたが、双葉町はその流れに後れを取り、福島県内の自治体に避難の協力を得ることができませんでした。その結果、双葉町の住民は埼玉県の加須市に避難をするようになりました。

現在は、原発事故の避難解除が進み、帰還困難区域が解除されていない地域は、双葉町・大熊町と山林の一部となりました。

帰還困難区域とは、除染を行っても帰還ができる見通しが立たない地域であると定義されていますが、町はそれを受け入れず、国に除染と帰還を求めています。我々住民はそれによって将来のビジョンが立てられず非常に困惑しているのが現状であります。

そのような状況で、今回は寺院が登記されている自治体を離れて、別の自治体で復興をしていくということ、つまり、

「大災害でふるさとを離れた地での寺院復興と再建を考える」
をテーマとして、話をさせていただきたいと思います。

私は震災前は建設業の技術者を副業としながらお寺の法務を行っていましたが、震災をきっかけに発心し、平成二十四年に日蓮宗大荒行堂に初行として入行し、震災復興への歩みを始めました。平成二十五年四月よりいわき市内の泉田霊園内に仮布教所を設け、同年八月に施餓鬼、十月に御会式、十二月に星祭を再開し、ようやくお寺として機能を回復し、復興への歩みを始めました。

しかしながら、復興とは現在における最善であり、やはり寺院の護持だけではなく発展を願うならば、寺院建立を含めた再建計画が必要であると感じた私は、平成二十七年に日蓮宗大荒行堂に再行として入行し、平成二十八年四月より、寺院再建に向けていわき市内に寺院を建立するという目標を掲げ、動き出しましたが、様々な問題に遭遇いたしました。ここで今回のテーマでございす、

「大災害でふるさとを離れた地での寺院復興と再建を考える」
について、話をさせていただきます。

現在も日本各地で様々な災害が発生しておりますが、ふるさとに帰れないというのは、ある意味、原発事故特有の問題なのかもしれませんが、非現実の話ではなく、起こりうる可能性がある話として聞いていただければ幸いです。

ある一つの自治体が生活の機能を失いますと、当然、別の自治体に避難が集中することになり、原発事故の場合、いわき市に避難が集中する事態となりました。

その結果、不動産物件は避難民に独占され、土地価格は異常な高騰をし、また車の大渋滞、病院に人があふれるなどの様々な問題が発生し、震災発生当初は絆という言葉が流行語になっておりましたが、震災から一年が経つ頃には

いわき市民と避難民の軋轢が表面化してしまいました。

この自治体と避難民の軋轢が、結果としてふるさとを離れた地に寺院を再建する高いハードルになってしまいました。

布教所を設けるだけなら、それほど難しい問題はないのですが、布教所設置はあくまで復興であり、再建には寺院建立が必要であると私は考えておりましたが、原発被災寺院に対して、震災復興特別措置などは当然なく、現状の法律に沿って寺院再建を目指さねばなりませんでした。そうなると、宗教法人法に基づき、三〇〇坪を超える土地を見つけないければならないのですが、いわき市は土地価格が異常高騰し、平均でも坪単価二〇万から三〇万という状況で、とても購入を決断できる価格ではありません。

山の土地を安く買って、開拓する案をおっしゃる方も多いのですが、日本各地の災害と東京オリンピックなどによる人手不足により建設単価も異常高騰しており、これにも莫大な資金を必要とします。

そこで発案したのが調整区域を安く購入し、いわき市から寺院建立の許可をいただく事だったので、いわき市と避難民の軋轢はここでも壁になり、誠意を持って寺院再建の計画を相談させていただいたのですが、許可をいただくには至りませんでした。

それでも、いわき市内の中心部から離れた場所に良い土地（立地・価格とも）を見つけたのですが、今度は墓地埋葬法の壁があり、地域住民に寺院再建に向けての話をさせて頂いたので、やはりどれだけ誠意を持ってお願いしても、軋轢の壁を超えることはできませんでした。

原発避難の真実を語るうえで、この避難先の住民と避難民の軋轢の話は、きれいごとでは済まされない、避けては通れない話題であります。

そのような状況のなかで、いわき市内に寺院建立する計画を一旦白紙にし、平成二十九年三月より、霊園内の布教所とは別にいわき市の中心部に身の上相談に特化した布教所を開設しました。ありがたい事に毎日多くの方が身の上相談においてになってくれますが、このような形の布教は、敷居が低い事によって、お客さんは増えるのですが、お寺がないと信者を増やすのは難しいと痛感いたしており、寺院建立への葛藤は今なお続いております。

私は寺院建立をすることで、寺院再建の第一歩となると考えました。しかし寺院建立をすることは、法律的にも、金銭的にも、また地域住民の皆様のご理解を得るといふ面からも非常に難しい事であることも痛感いたしました。しかしながら、この現状を受け止めながら、寺院の再建に一步一步向かっていきたいと思っております。

ご清聴誠にありがとうございました。